

物と共に迷いもスッキリ捨てる！ 虫をいっぺん大変にんだ!!

今週の

倫理

10月のテーマ | 決断をする

幸せ海、マホー鳥

2021. 10. 30～11. 5

1253号

「優柔不断」と同じ意味で使われる「優游不断」とは、中国の歴史書である『漢書』の一節に出てくる言葉です。

前漢の第十代皇帝だった元帝は、庶民に寄り添った政治をしていたものの、結果として部下の制御ができず、王朝を滅ぼしてしまう結果になりました。その様子を「優游不断」と表現しており、これが「優柔不断」の由来になったともいわれます。

会社においても、社員や顧客、取引先の意見に耳を傾けることが大切なのは言うまでもありませんが、それにより、大事な決定ができなくなってしまうのは本末転倒です。最終的な決断には、リーダーが決めるべきことを明確にすることが肝要です。

そして、物事を決める上で大切なのは「捨てる覚悟」です。二股の道に差し掛かった時、右に行くか決めることは、左の道を捨てることとあり、逆もまた然りです。取捨選択といわれるように、何を取得するかは、何を捨てるかと同義といっても過言ではありません。

さて、「選択肢」というものを考えるとき、多い方が良いと考える人は少なくないでしょう。しかしながら、必ずしも、そうとは言えないようです。

とあるスーパーマーケットにおける実験の話です。二つの店舗でジャムを売るにあたって、一方には二十数種類のジャムを置き、もう一方には数種類に限ったジャムを置き、どちらが売れるかを調査しました。

普通に考えれば、色々な種類から選べた方が、顧客の需要に応えることができるため、



「決める」とは「捨てる」ということ

前者の方が売れそうなものですが、結果は後者の売り上げが多かったのです。

選択肢が多い為に迷いが生じて、購入の決断ができなかったというものでしょう。

ゆえに、決断ごとに対して「何を捨てるのか」という観点から見ると、新たな気づきがあるのかもしれない。

具体的な実践として、まずは、身の回りの物を捨てることをおすすめします。

Mさんは、決断力のない自分を変えたいと悩み、倫理指導を受けました。すると、指導者からは「服を捨てなさい」と言われました。

早速、実践に取り組み、八割程の服を捨てようと、ゴミ袋に入れました。しかし、いざ捨てるようとしても、捨てる勇気が出ません。

結局捨てきれずに二週間が経過したある日、Mさんは多くの服をゴミ袋に入れたまま、生活していることに気づきました。これまで、必要不可欠だと思っていた服がなくとも、十分に生活ができていたのです。

その事実を受けとめた時、使いもしない服を溜め込んでいたことを反省すると共に、服に対して申し訳ない思いになりました。Mさんは、捨てることにした服に感謝を伝えて、服を手放すことを決めたのです。

それからというもの、Mさんは、日常においても、事の大小にかかわらず、物事を決断することができるようになったと言います。

決めるとは捨てるということ、捨てるということは、大切なことを明確にすることです。

物と共に、迷いもスッキリと捨て、勇気を持って決断していききたいものです。